

2015年9月14日

学校法人同志社 総長 大谷 實 殿
学校法人同志社 理事長 水谷 誠 殿
同志社香里中学校 校長 福田耕治殿

日本基督教団大阪教区常置委員会

「育鵬社」の教科書採択についての抗議と要望

主イエス・キリストの平安を祈り、ごあいさつ申し上げます。

御校におかれましては、日々生徒と向き合い、育み、教える大切な業に励まれていることと存じます。そのお働きに敬服いたします。また、教会に生徒たちをお送りくださり感謝を申し上げます。

さて、9月に入り、私どもキリスト者は、御校が次年度以降の「公民」、「歴史」の教科書に「育鵬社」版のものを採択したことを知りました。このことに、キリスト教主義学校と関係を密接にする私たちは、強い危惧と疑念を抱いております。

近年、日本においては排外主義がいたるところで猛威をふるう中、安倍首相は、ほとんどの憲法学者が違憲と判断しているにもかかわらず、他国の戦争に自衛隊を送ることができる、いわゆる「安保関連法案」を国民の理解なしに強行しています。マスコミでも連日「嫌中・嫌韓」をあおるような報道がなされ、また街では大音量で「朝鮮人殺せ」などのヘイトスピーチや差別的暴力行為が堂々に行われ、偏狭な民族主義とナショナリズムが横行しています。

そのような現実と向き合うとき、私たちは子どもたちが将来、人を差別したり、あるいはされたり、戦争に加担したり、巻き込まれないよう努めなければなりません。また、そのためには教育の業がいかに大切であるかを認識しています。

しかしながら、今回採択された「育鵬社」の教科書は、内容について問題点が多いと指摘されているものです。「公民」においては、安倍首相の写真が多用され、現政権を支えるためのものとさえ思えます。「歴史」においては、近代以降の戦争、帝国主義、植民地支配を肯定し、あたかもそれによって日本が発展したかのように記され、また、昭和天皇の「英断、聖断」と呼ばれるものによって戦争が終結したことが強調されています。一方、沖繩戦の記述では、軍隊によって強制的に集団死させられたことが避けられているなど、明らかに内容が偏っています。いくら、文部科学省が合格と認めた教科書であるとはいえ、戦争が美化され、日本民族の優越性のようなものが、強調されるこのような教科書に基づいて、子どもたちに歴史教育がなされることに、強い危機感を覚えます。それゆえ、今回の採択に対し、抗議し、再考を要望いたします。

キリスト教界は、先の戦争に教会をあげて賛同し、国家に迎合し、神社参拝を行い、多くのアジアの人々の殺戮に加担しました。私たちは、その歴史と真摯に向き合うために、反省し、告白するものとして歩まなければならないと思っております。キリスト教主義学校においても、戦前「国家とキリスト」とのはざままで、どれだけ苦悩したのかを思い返す必要があるのではないのでしょうか。あの時、キリスト教主義学校も国家にからめとられ、ものを言うことさえできずに、戦争に賛同し、多くの教え子を戦地に送ったのではなかったのでしょうか。

外部の者が、御校社会科のことに口をはさむことについては、失礼を十分承知しているつもりです。しかし、キリスト者として、子どもの未来を思う者として今回のことは見過ごすわけにはいきません。

イエス・キリストは、排外主義ではなく、多様な人々が「共生」できる世界をつくることを望んでおられると、私たちは信じます。そして、その精神に基づいた「自由」と「良心」を育む働きこそキリスト教主義を掲げる御校、また、そこに連なる教育者のつとめだと思います。どうぞ、私たちの抗議を受け止め、「育鵬社」の教科書採択をご再考くださるよう強く要望いたします。

主にあつて